

国際シンポジウム

立命館創始140年・学園創立  
110周年記念



ART RESEARCH CENTER

# DIGITAL LIBRARIES AND THE STUDY OF EDO PRINT CULTURE

デジタル・イコノグラフィーイメージデータベースと江戸出版文化研究



12/17 (FRI.) 15:30-18:15  
WORKSHOP / 若手研究者による  
ワークショップ

12/18 (SAT.) 10:00-18:30  
SYMPOSIUM / 国際シンポジウム  
at 立命館大学アート・リサーチセンター  
多目的ルーム

# 12/17(FRI.) 15:30-18:15 WORKSHOP 若手研究者によるワークショップ

15:30 - 15:40	はじめに
15:40 - 16:00	近世における『清少納言枕草子』の脚色 Early Modern "Versions" of Sei Shōnagon's Pillow Book ゲルガナ・イワノワ／Gergana Ivanova (ブリティッシュ・コロンビア大学大学院・博士課程)
16:00 - 16:10	質疑応答
16:10 - 16:30	SOASと大英博物館所蔵の朝鮮通信使行列絵巻の比較研究における一考察 A Comparative Study of the "Korean Ambassadors" Handscrolls in the SOAS and British Museum Collections 林美和子／Hayashi Miwako (Research Assistant, Sainsbury Institute, SOAS)
16:30 - 16:40	質疑応答
休憩（15分）	
16:55 - 17:15	絵画資料にみる「五人男」のイメージとその変化 The History and Development of "Gonin otoko" Imagery 加茂瑞穂／Kamo Mizuho (立命館大学大学院・文学研究科博士課程後期課程)
17:15 - 17:25	質疑応答
17:25 - 17:45	上村松園の十五年戦争期作品 Uemura Shōen and Paintings from the Period of the Fifteen Years War (1931-1945) 池田安里／Ikeda Asato (ブリティッシュ・コロンビア大学大学院・博士課程)
17:45 - 17:55	質疑応答
17:55 - 18:15	コメント

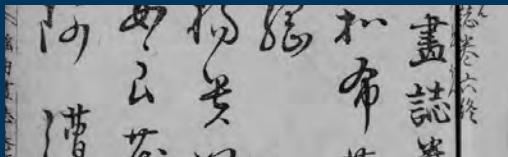
# 12/18(SAT.) 10:00-18:30 SYMPOSIUM 国際シンポジウム

<b>I. New Resources for the Study of Japanese Pictorial Subjects 日本画題研究における新視点</b>	
10:00 - 10:30	歌麿狂歌本における自然への興味—絵入初版本からデジタル出版まで Utamaro's Kyōkabon on Natural Themes: From Illustrated First Editions to Digital Publication ジョン・カーペンター／John Carpenter (SOAS & Sainsbury Institute)
10:30 - 11:00	画題図像の約束事 Identifying Subjects in Japanese Print Culture Using Iconographic Indicators 岩切友里子／Iwakiri Yuriko
休憩（15分）	
11:15 - 11:45	絵面と見得 Mie Poses Captured in Kabuki Prints: A Comparative Study Using Image Databases 赤間 亮／Akama Ryo (立命館大学・教授)
11:45 - 12:15	質疑応答
12:15 - 13:30	昼食
13:30 - 14:00	業平と伊勢物語～慶長から宝永まで Narihira and Ise monogatari: 1596-1704 ジョシュア・モストウ／Joshua Mostow (ブリティッシュ・コロンビア大学・教授)
14:00 - 14:30	江戸絵画における「絵兄弟」の史的変遷 "Brother Pictures": E-kyōdai in Edo Visual Culture 松葉涼子／Matsuba Ryoko (立命館大学・ポストドクトラルフェロー)
14:30 - 14:45	質疑応答
<b>II. Indigenizing Iconography: Foreign Sources of Japanese Imagery Indigenizing Iconography—日本化された外来図像</b>	
14:45 - 15:15	蘭亭修禊雅会の図像解釈学—楊模と庾蘊のイメージを例として— An Iconology of the Orchid Pavilion Gathering: Image, Text, and Ideology in Early Modern Japan 龜田和子／Kazuko Kameda Madar (ブリティッシュ・コロンビア大学大学院・博士課程)
15:15 - 15:45	蝦蟇仙人考 The Toad Hermit: Images of Gama Sennin in China and Japan 張 小鋼／Zhang Xiaogang (金城学院大学・教授)
15:45 - 16:00	質疑応答
休憩（10分）	
16:10 - 16:40	日常生活の図像—円山四条派人物画譜 An Iconography for Daily Life: 'Genre Books' by Maruyama-Shijō Artists エリス・ティニオス／Ellis Tinios (リーズ大学・名誉教授)
16:40 - 17:10	外国船とその乗客—視覚的合成とカテゴリー化の例として Foreign Ships and Travellers from Afar: Visual Conflation and Confusion in Edo Art 鈴木桂子／Suzuki Keiko (立命館大学・准教授)
休憩（10分）	
17:20 - 18:30	全体討論

# DIGITAL ICONOGRAPHY

IMAGE DATABASES AND THE STUDY OF EDO PRINT CULTURE

デジタル・イコノグラフィー  
イメージデータベースと  
江戸出版文化研究



近年、浮世絵・絵本を中心とした絵画資料のデジタルアーカイブ化が進み、国際的な視野に立った資料の共有化と蓄積がみられるようになつたことで、絵画資料の研究は新しい段階を迎えようとしている。

文部科学省グローバル COE プログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」(立命館大学) 日本文化研究班ジョン・カーペンター研究室では、多くの画像資料を比較することで、近世絵画表現の発想法、機能について分析することを目的とし、2008年12月よりカナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学(UBC)、イギリス・ロンドン大学SOAS、立命館大学ARCを拠点として、「近世視覚文化を読み解く」研究会を行つてきただ。活動を通して、国内外における図像研究の問題点とは何か、相互に理解するための議論がまだ十分になされていないことがわかつてきている。

本シンポジウムは、過去2年間にわたる研究会の成果を踏まえ、新たな学問領域として Digital Iconography を提唱し、図像研究における海外研究者の視点、国内の研究者の視点の特色を明らかにする。その上で研究領域に資料のデジタルアーカイブがどのような役割を果たしてきたか、また、今後どのように関わっていくのかについて議論する。

[主催]

文部科学省グローバル COE プログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」(立命館大学)

[企画]

文部科学省グローバル COE プログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」(立命館大学)・日本文化研究班ジョン・カーペンター研究室

[問い合わせ先]

立命館大学アート・リサーチセンター事務局  
〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1  
TEL 075-466-3411 (平日 9時~17時30分)  
arc-jimu@arc.ritsumei.ac.jp

<http://www.arc.ritsumei.ac.jp/>

